

かめのり中高生アンバサダープログラム 2019 報告

【目標】

「かめのり中高生アンバサダープログラム 2019(KTAP2019)」目標は以下の三つである。

- ①様々な場で、自身のコミュニケーション能力を実感する
- ②フィリピンの文化、社会などを知り、文化の異同を理解する
- ③人との協働においてどのような能力が必要なのかを、体験を通して知る

【日程】

- 1月19日(土) 羽田空港で出発前オリエンテーション実施後出発、夜マニラ空港着
1月20日(日) 市内観光(イントラムロス内マニラ大聖堂、サン・アウグスティン教会、サンチャゴ要塞、リサール公園)、振り返り
1月21日(月) デラサール高校、大学訪問、振り返り
1月22日(火) JICA、Unang Hakbang Foundation 訪問、ケソン市に移動、振り返り
1月23日(水)
～25日(金) にほんご人フォーラム in フィリピン(国際交流基金マニラ日本文化センター主催)
1月26日(土) フィリピン音楽・舞踊・古代文字 Workshop、振り返り夕食会
1月27日(日) 帰国

【報告】

1月20日 市内観光

教会を見学するにあたり、昨年の反省から生徒達にキリスト教について調べてくるようにと事前オリエンテーションで伝えていたが、「キリスト教について調べる」という意味を「歴史や布教分布を調べる」ととっていたようで、「キリスト教の教え」についてはまだ少し知識不足だった。日本で寺社仏閣を訪問するときも「仏教の教え」をある程度知っておくことは重要なことであるので、この点については次年度以降更に押さえるべき課題だと認識した。

リサール公園でのタスク終了後に早めにホテルに戻り、夕食前に皆でホテルの近くを散歩し、写真を撮ったり、セブンイレブンで買い物をしたりする時間を作ったが、このフリータイムで一日市内観光の疲れをリフレッシュできたようだった。この日の振り返りで「散歩が一番楽しかった」と答えていた生徒もいた。



1月21日 デラサール高校、大学訪問

デラサール高校、大学は富裕層の通う私学である。まず、ラグーナキャンパスの高校を訪問し、日本語を学んでいる高校生と日本語と英語で交流の時間を持った。高校生同士、アニメやスポーツの話で盛り上がっていたようだった。その後のキャンパスツアーでは、広大な敷地にびっくり。見事なサッカーグラウンドにサッカー部所属の参加生は「うらやましい～」とため息をついていた。教室に戻り、日本文化についてのプレゼンテーションを行ったが、準備の甲斐があり、デラサールの高校生に喜んでもらうことができた。



教室に戻り、日本文化についてのプレゼンテーションを行ったが、準備の甲斐があり、デラサールの高校生に喜んでもらうことができた。

マニラキャンパスでは大学のトップスポーツ選手が10人ほど来てくれて、生徒達と交流する時間があつた。日本人の学生も3人(サッカー2人、バドミントン1人)おり、デラサールに入学した経緯や大学生活についての話はとても興味深いものだった。フィリピンではチェスもスポーツのカテゴリーに入っており、チェスの選手から生徒達は手ほどきを受けることができ、よい経験となった。

ラグーナキャンパス、マニラキャンパスの素晴らしさに生徒達は驚いており、今まで知らなかったフィリピンの一面を見ることができた。また、高校生・大学生の交流力の高さにも感動していたようだった。

ラグーナキャンパス、マニラキャンパスの素晴らしさに生徒達は驚いており、今まで知らなかったフィリピンの一面を見ることができた。また、高校生・大学生の交流力の高さにも感動していたようだった。

1月22日 JICA 訪問

国際協力の意義を考える、ODA について理解する、JICA の役割を知る、という目的でプレゼンテーションを行ってくださった。開発協力の目的(なぜ開発途上国を支援するのか)について、地球規模の課題であり、相互依存の社会であることを分かりやすく説明していただき、支援をする側にとっても重要なことであることを生徒達は理解した。フィリピンでの具体的な事例紹介やケーススタディの時間もあつた。時間を30分も延長していただき、有意義な時間となった。生徒からの質問では、「独立に向けた住民投票が行われているバンサモロで新しい政府ができたときの JICA の対応について」などかなり高度なものがあつた。また、「貧困はなくなる



と思うか」「できることに限りがあることを空しく感じないか」など直球の質問もあり、「貧困が例えなくならないとしても、まずできることをしていくことが重要。行動しないという選択肢はない」と真摯に答えてくださった。

1月22日 UHF 訪問

UHFは貧しい地域にある学童保育のような施設で、放課後集まってくる子どもたちと折り紙などをして2時間ほど遊んだ。男子生徒も紙飛行機や手裏剣の折り方を教えて、UHFの男の子たちに大変好評だった。また、皆で歌やダンスで盛り上がり、双方にとってよい経験となった。帰る前に周囲の地域を案内してもらったが、狭い道の両側に連なった長屋、裸足で歩いている子どもたち、痩せた犬や猫、小さな売店のような店、ゴミや汚れた水たまりのある道などを目の当たりにして、フィリピンの現実に生徒達は驚愕していた。



て、UHFの男の子たちに大変好評だった。また、皆で歌やダンスで盛り上がり、双方にとってよい経験となった。帰る前に周囲の地域を案内してもらったが、狭い道の両側に連なった長屋、裸足で歩いている子どもたち、痩せた犬や猫、小さな売店のような店、ゴミや汚れた水たまりのある道などを目の当たりにして、フィリピンの現実に生徒達は驚愕していた。

1月23日～25日 にほんご人フォーラム(国際交流基金マニラ日本文化センター主催)

「Think MOTTAINAI! Changing our Mindset to save Earth!」をテーマに、日本語を学んでいるフィリピン人高校生30人、日本人中高生12人、フィリピンの日本語教師20人が集まり、3日間のにほんご人フォーラムが行われた。生徒プログラムでは、1日目、まずMOTTAINAIについて学び、ボホール島で活動しているNGOイカオ・アコの講演を聞いて3Rを考えた。最終日(3日目)のファイナルアウトプットはエコプロモーションとして作成した1分の動画、その説明を7分ほど行うという形式で、それに向けて2日目は近くのモールにエコやMOTTAINAIを探しにフィールドワークに出かけた。グループはフィリピン人5人、日本人2人で構成され、協働力、コミュニケーション力、想像力、創造力を皆全力で稼働させた結果、ファイナルアウトプットで作成された動画はどのグループも大変工夫されていて、正味1日ほどでこれほど完成度の高いものができるのかと感心した。作成にあたり、講師よりSMART (specific, measurable,





attainable, realistic, time-bound)という視点が与えられ、それに沿った分かりやすいエコプロモーションが出来上がっていた。日本人の生徒達は、語学力やコミュニケーション力が足りなくてグループの話についていけない、フィリピン人にもっと日本語を話してほしい、など大いに悩んだが、その悩みこそ次の機会へのばねとなるだろう。



1月26日 フィリピン音楽・舞踊・古代文字 Workshop、振り返り夕食会

フィリピン大学で伝統的な楽器、舞踊、古代文字を体験した。前日までは頭をフル回転させたが、この日は体と感覚を使って、フィリピンの伝統に触れた。古代文字のワークショップでは、KTAPのフィリピンでの体験を振り返り、思い浮かぶことばを日本語、英語、フィリピン文字で絵とともに表した。「友情」「あたたかい」「発見」「頑張った」「フレンドリー」「親切」などのことばが選ばれていた。ワークショップ後はフィリピン大学内をジプニーで回り、少しゆったりとした時間を過ごした。



最終日の夜は国際交流基金マニラ日本文化センターからも3人の方が参加してくださって、振り返りの夕食会を行った。6時から8時の予定であったが、生徒達が応募時から今日までを振り返り、それぞれの思いが深く大きかったため、大幅に時間を延長して10時半ごろまで続いた。今

回のKTAP2019では特に振り返りに重きをおき、毎晩その日考えたこと、感じたこと、発見したことを皆に発言させてきたが、最終日はスピーチ大会のように素晴らしい体験発表となった。短い期間であってもここまで考えることができた、ここまで仲良くなれた、将来のことを考える機会となった、という発言が多く、皆の成長がうかがえた。



1月27日 帰国

12人が大きく体調を崩すことなく、全員が全てのプログラムに参加できたことは本当によかった。また、想像以上に生徒達が団結し、仲良くなったことは嬉しい限りである。出発前に掲げた一人ひとりの個人の目標は達成され、帰国後はそれぞれ別の地域に戻るが、今回育んだ友情が続き、学んだチャレンジ精神、勇気、素直になることなどを忘れずに今後に生かしていってくれることを期待している。